

第十二節 明治四十五・大正元年

大正元年度東京美術學校年報

甲 款

概況

明治四十五年四月六日本年度ニ於ケル本科入學許可者氏名ヲ官報ニテ發表セリ

同年七月三十日 天皇陛下崩御アラセラル 上下悲痛極リナシ

玆ニ於テ學校長ハ本日午前十時ヲ以テ本校教授ヲ集メ崩御ニ関シ文部大臣ヨリ傳ヘラレタル旨ヲ諭示セリ

大正元年八月二日在京ノ本校職員生徒一同ヲ講堂ニ集メ學校長ヨリ大喪期中ノ心得ニ関シテ訓諭シ又 先帝陛下ノ聖德ニ就キテ謹話スル所アリタリ

同年九月十三日大喪儀ニ付本校職員生徒一同隊伍ヲ整ヘテ宮城前二重橋外ノ奉送豫定地ニ至リ靈輻ヲ奉送セリ

同年九月廿五日本年度ニ於ケル撰科入學許可者氏名ヲ官報ニテ發表セリ

同年十月四日本校設置紀念日ナレトモ大喪中ニ付紀念式ヲ行ハス大正二年一月八日午前十時ヨリ例ニ依リテ職員生徒一同講堂ニ參集シテ授業始ノ式ヲ舉ゲ 勅語奉讀ヲ行ヒテ式ヲ終レリ

同年三月十七日本校玄関付一棟ノ新築成リタルヲ以テ此日ヨリ使用セリ

同年三月廿九日午後一時三十分ヨリ第二十二回卒業証書授與式ヲ行ヒ例ニ依リテ卒業製作ヲ陳列シテ來賓ノ觀覽ニ供シ翌三十日ハ關係者ニ縦覽セシメタリ

規程

大正元年十二月十八日文部省會第五号ヲ以テ本校圖画師範科規程中改正セラレタルヲ以テ本校規則同科規程中ニ改正ヲ施セリ 其要旨ハ同科生徒ハ從來「府縣知事」ヨリ薦舉スベキ規定ナリシヲ「當該學校長」ヨリ薦舉スルコト、ナシタルナリ

設備

一、建築科設備費

二、寫真製版科設備費

以上兩科ヲ設クルノ緊急必要ナルコトハ本年報中ノ將來施設上重要ト認ムル事項欄ニ記載セル所ノ如クニシテ昨年度豫算ニモ之ヲ計上セシガ遂ニ未ダ實施セラル、ニ至ラザルヲ以テ速ニ之ヲ實施セラレンコトヲ望ム 而シテ其設備費ノ如キモ從來餘裕ナキ本校ノ經費ニテハ如何トモスルコト能ハザルヲ以テ別ニ之ヲ支出セラレンコトヲ切望ス

職員

本校職員ノ俸給及諸給ノ豫算ハ常ニ不足ヲ告グ 之レ他ノ直轄學校ニ比シテ平均額ノ低キト從來各科増設ノ際増員ノ少キトニ職由セリ 故ニ平均額及俸給豫算ノ増加ハ切ニ望ム所ナリトス 本年度ニ於ケル職員ノ數ハ學校長一人教授二十五人（内一人他校ヨリ兼務）助教授十七人（内二人留學中）書記五人囑託講師九人同教員六人同醫師一人副科囑託三人教務雇八人事務雇八人ニシテ

之ヲ前年度末ニ比スレバ助教ニ二人ヲ減シ教務雇ニ二人ヲ増シタリ

外國留學生ハ前年度末ニ同シク助教二人アリ

休職員ハ前年度末ニ於テハ之ヲ見ザリシカ本年度末ニアリテハ一人アリ

生徒

全体ニ於ケル生徒ノ學力操行健康ニ於テハ前年度ニ比シテ著シキ差違ナク新入學生モ前年度ニ比シ著シキ差違ナシ

本年度新入學者ハ本科七十五人撰科八人(外ニ外國人二人) 圖画

師範科二十人研究科十八人ニシテ其入學者ノ學力ノ程度ハ本科生ニアリテハ官公立中學校卒業者三十八人私立中學校卒業者二十二

人工藝學校卒業者六人工業學校卒業者九人撰科生ニアリテハ公立中學校卒業者一人中學校二學年修了者四人高等小學校卒業者二人

同程度ニ依リテ試験ヲ施シ入學ヲ許シタルモノ一人又外ニ外國人(支那人)ニシテ同科へ入學ヲ許シタルモノ二人アリ圖画師範科

生徒ニアリテハ官公立中學校卒業者八人師範學校卒業者十二人、研究科生ハ何レモ本校卒業者ノ入學セシモノナリ

新入學生ノ年齢ハ本科生ハ最高二十五年五ヶ月最低十八年平均二十一年三ヶ月撰科生ハ最高二十三年十ヶ月最低十八年平均二十年

九ヶ月圖画師範科生ハ最高二十四年九ヶ月最低十九年十ヶ月平均二十三年一ヶ月研究科生ハ最高二十七年一ヶ月最低二十三年一ヶ月平均二十四年九ヶ月(孰レモ外國人ヲ除ク)ナリトス

生徒ノ入退學ハ本年度入學者ハ本科七十五人撰科八人(外ニ外國人二人) 圖画師範科二十人研究科十八人再入學三人ニシテ退學者

ハ病氣退學六人家事係累退學三十六人除名六人死亡二人在學資格消滅二十一人(豫備科十三人研究科六人圖画師範科二人) 退學ヲ

命シタリモノ二人逐學ニ處シタルモノ一人アリ又轉科二人復校一人アリ今之ヲ前年度ニ比スレバ入學者ニアリテハ本科ニ三人ヲ減

シ圖画師範科ニ二人ヲ撰科ニ七人ヲ研究科ニ十九人ヲ減シ再入學ニハ増減ナシ 退學者ニアリテハ病氣退學ニ二人ヲ家事係累退學

ニ六人ヲ除名ニ五人ヲ死亡ニ六人ヲ減シ在學資格消滅ハ十五人(豫備科ニ八人、研究科ニ五人、圖画師範科ニ二人)ヲ増シ病氣

ノタメ退學ヲ命シタルモノニ二人(前年度ナシ)ヲ逐學ニ一人(前年度ナシ)ヲ増セリ 又轉科ニ一人ヲ増シ復校(前年度一人

アリ)ニハ増減ナシ 生徒ノ員數ハ本年度末ニ於テ之ヲ前年度末ニ比スレバ日本画科ニ

四人ヲ西洋画科ニ四人ヲ彫刻科ニ五人ヲ漆工科ニ五人ヲ撰科ニ七人ヲ研究科ニ八人ヲ圖画師範科ニ一人ヲ減シ圖案科ニ一人ヲ金工

科ニ四人ヲ鑄造科ニ一人ヲ増シタルヲ以テ總數ニ於テ差引二十八人ノ減少ヲ見ル 而シテ又本年度ニ於ケル外國人ヲ學グレバ撰科

生中ニ支那人五人アリ 本年度ノ卒業生ハ本科六十八人撰科十四人(内支那人二人アリ) 圖画師範科十八人ニシテ前年度ニ比スレバ八人ヲ増セリ

生徒中學術品行殊ニ優等ナルモノヲ撰ビ大正元年九月ヨリ一學年間ノ授業料ヲ免除シ特待生ヲ命シタルモノ十八人アリテ前年度ニ

比スレバ二人ヲ増セリ 毎年九月生徒ノ前學年ニ於ケル勤惰ヲ考查シ精勤者ニ賞狀ヲ授與

シ来リタルガ本年度ニアリテハ賞狀ヲ授與セラレタルモノ十三人

アリ(前年ハ帳簿焼失ニ付見合セタリ) 實業學校教員養成規程ニ依リ毎月學費トシテ一ヶ月金五円ヲ補給シタルモノ一人ニシテ其數前年度ニ同シ

圖画師範科生徒ニハ學資トシテ毎月金六円ツ、ヲ支給ス 本年度支給人員ハ五十七人ニシテ前年度ニ比スレバ三人ヲ減セリ

大正二年三月末卒業スベキ各本科撰科生徒ニシテ實地修學ノタメ大正元年九月二十日ヨリ三週間ヲ以テ助教二人囑託一人雇一人ヲシテ之ヲ引率セシメ京都奈良滋賀和歌山ノ一府三縣へ出張シテ美術上ノ研究ヲナサシメタルコト前年度ニ同シ

大正二年三月末卒業スベキ圖画師範科生徒ヲシテ實地授業法調査研究ノタメ大正元年十月廿六日ヨリ九日間ヲ以テ教授一人ヲシテ引率セシメ京都大阪ノ二府奈良三重ノ二縣へ出張セシメタリ

本校ハ皆通學ナルヲ以テ寄宿舎ニ関シテハ申報スベキコトナシ 將來施設上重要ト認ムル件

甲 留學生増派ノ件〔三十九ノ四十四年度報告〕
告と同文につき省略

乙 生徒實地研究費増額ノ件〔四十一ノ四十四年度報告〕
四十四年度報告とほぼ同文につき省略

丙 建築科特置ノ件
四十四年度報告とほぼ同文につき省略。末尾の「予算請求年度「四十六年度」が「大正三年度」と書き替へられただけである。

丁 寫真及製版科新設ノ件〔四十四年度報告とほぼ同文につき省略〕
四十一ノ四十四年度報告とほぼ同文につき省略

戊 陳列館新設ノ件〔四十一ノ四十四年度報告とほぼ同文につき省略〕
生徒實験ノ資ニ供スルタメ諸所ノ依頼ヲ受ケ製作ニ従事シタルモノ、中重ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

依囑製作品一覽

品名	數量	受託年度	本年度内竣工 未竣工ノ別	依囑者
頌德表掛額	壹面	本年度	未竣工	農商務省
府縣聯合共進會賞牌	百貳拾個	同	竣工	
				組

明治四十五年 東京美術學校年報
大正元年

乙款 〔火災による特に申報すべし事項のみを掲載する。〕
其他經濟上特ニ申報スヘキ事項

一 本校火災後ニ於ケル復旧費ハ既定ノ本校校舍改築費ニ追加セラレ明治四十四年度及四十五年ニ於テ全部復旧スヘキ管ノ處四十五年ニ於テ豫算繰延トナリ僅カニ金貳千円ノ令達アリシノミ 從テ本年度ニ於テハ全部復旧スルコト能ハサルノミナラス 經理上非常ニ差支ヲ生セシモ幸ニ前年度ヨリノ繰越金壹千三百五拾餘円アリシヲ以テ應急ノ處置ヲ採ルコトヲ得タリ

『東京美術學校校友會月報』記事抜粹
東京美術學校近事〔一〇—五〕
M・四五年二月一日

○教授諸氏の陞等 教授海野美盛氏は高等官四等に、教授沼田勇次郎、小堀鞆音、福井信之進の三氏は、各高等官六等に、孰れも昨年十二月二十六日陞叙せられたり。
○勳等の陞叙と初叙 教授川端玉章氏は勳四等に陞叙せられ、教授